

毒ガス被害の元イラン兵

救われた命 17年ぶりお礼

イラン・イラク戦争中の88年3月、イラク軍の毒ガス攻撃に遭い、日本での治療で奇跡的に助かった元イラン兵、アリ・ジャラリさんが来日し、当時は帝京大学救命救急センター(東京都板橋区)で治療チームのリーダーを務めていた中谷寿男さん(57)＝関西医科大学教授＝ら2人の医師と29日、大阪市内で17年ぶりに再会する。アリ・ジャラリさんは肺機能や視力が低下しているが、「お礼が言えるのは、終戦以来、人生で最も楽しみにしていた」と待ちわびている。

【花岡洋二】

イランの被害者支援団、送られ、成田赤十字病院体によると、80、88年の(千葉県成田市)に収容同戦争では、イラン人計、され、同月中旬に帝京大約6500人が毒ガスでへ移された。意識は回復死し、大勢が後遺症にしながら全身が熱傷でただ苦しんでいる。

アリ・ジャラリさんは、両国国境近くでマスタードガスに被弾。4月上旬、意識不明のまま日本へ搬



中谷寿男さん



88年、帝京大救命救急センターに入院中のアリ・ジャラリさん＝本人提供

れ、自力呼吸できなかつた。言葉は通じず、医師らに「症状が悪化がペルシャ語の対訳表で診断した。心細さから毎日泣いていた。5月下旬、あつたが、音信が絶えた。ある深夜、気管支内が出血し、ほぼ心停止に。中谷さんは「もうだめだ」と、賞惜したが、チームの懸念、津谷静子理事長)の招き

日本で入院…言葉の壁超え懸命治療 中谷・関西医大教授らと29日再会

で、今年8月に広島平和記念式典へ招かれたアリ・ジャラリさんは「あの医師たちに会いたい」と訴えた。88年の来日時、は、被弾直前に生まれた長男と写真で初めて対面したり、スタッフと身ぶりで交流した思い出もあるという。所持していた治療記録の署名などから、会員が中谷さんらを見つけた。中谷さんは生存を知り、これほどうれしいことはない。後にサリン被害者の治療もしたが、毒ガスが「一度と使われないことを願う」と訴える。

薬剤師でもある津谷理事長は「再会を望むことが、生きるための『心の薬』。日本・イランの友好にとって宝だ」と話している。